



岩手県立大学主催 [釜石市平田における 重層的見守り 報告会]

岩手県立大学では東日本大震災後に、復興加速化プロジェクトの1つとして、釜石市鶴住居の仮設住宅で見守り体制づくりに取り組んできました。その成果をもとに、平成27年からは釜石市平田の特別養護老人ホームあいぜんの里を見守りセンターとし、民生委員等の人的見守りと、ICT(情報通信技術)を活用した見守りとを重ねた体制を構築し、社会実験を行ってきました。

その結果、高齢者が自ら毎日の健康状態や血圧を発信することにより主体的な生活を維持し、見守る側はその情報を共有しながら連携して支援することができるようになっていきます。

今回の報告会では、日本遠隔医療学会在宅見守り支援分科会の研究者とともに、社会実験のモニターになってくださった南釜石と唐丹の民生委員の方々にもパネルディスカッションに加わっていただき、その成果と今後の展望を釜石市等の皆様にお伝えさせていただきます。

[8月6日 月曜日 14:00~16:00]

- 場所**:釜石・大槌地域産業育成センター
(岩手県釜石市平田3-75-1)2階大・中併用会議室
- 参加費**:無料(事前予約不要・先着85名入場可)
※ただし、駐車場をご使用予定の方は事前にお知らせください。
- 連絡先**:岩手県立大学地域政策研究センター 担当:上野山英克
(019)694-3330 uenoyama@ipu-office.iwate-pu.ac.jp

主催:岩手県立大学地域政策研究センター

共催:日本遠隔医療学会在宅見守り支援分科会

公益財団法人釜石・大槌地域産業育成センター

岩手県医療福祉情報化コンソーシアム

後援:釜石市・岩手県社会福祉協議会・釜石市社会福祉協議会
クアルコムジャパン株式会社